

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第10回頸城区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

○頸城区地域活性化の方向性の検証について

○地域協議会活動報告会について

3 開催日時

令和6年1月17日（水）午後6時30分から午後8時20分まで

4 開催場所

頸城コミュニティプラザ 2階 203会議室

5 傍聴人の数

0名

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：笠原昇治（副会長）、小川泉、佐藤学、新保哲男、滝本篤透、西巻肇、船木貴幸、山本誠信、横山一雄、橋本春美（委員13人中10人出席）
- ・事務局：頸城区総合事務所岡村所長、渡邊次長、井部市民生活・福祉グループ長、本山教育・文化グループ長、総務・地域振興グループ渡辺班長、市川主査

8 発言の内容

【渡邊次長】

- ・会議の開催を宣言

【渡邊次長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：山本委員、橋本委員に依頼。

【岡村所長】

- ・令和6年能登半島地震での上越市及び頸城区等の被害状況の報告

【笠原副会長】

- ・挨拶

次第3 協議事項「(1) 頸城区地域活性化の方向性の検証について」に入る。事務局説明願う。

【渡辺班長】

- ・事務局からの説明

【笠原副会長】

質問はあるか。

無いようなので、次に提出してもらった「頸城区の将来の10年後、30年後、50年後」について事務局説明願う。

【渡辺班長】

- ・頸城区の将来の10年後、30年後、50年後についてのまとめを説明

【笠原副会長】

質問はあるか。

【新保委員】

私は10年後くらいまでは予想がつくが、その先は考えても同じようなイメージしか出てこず、30年後、50年後と言われるとあまりピンとこないのだがまとめなければいけないのか。

【渡辺班長】

この資料を作成いただく時に、少し説明が不足していて大変申し訳なかった。まちづくりは一朝一夕にできるものではない。新保委員が言われるように30年後、50年後というのはなかなかイメージができないところではあるが、自身の子どもや孫の時代をイメージしてもらい、頸城区はこのようになったらいいなという思いを考え、まとめてもらいたい。

【新保委員】

10年後くらいならわかるが、30年後、50年後はわからない。

【市川主査】

まちづくりというテーマで今回、皆さんから頸城のまちづくりの方向性を検討してもらった。これは自分たちの時代だけではなく、孫子の時代にどのようなになっていっ

てもらいたいかという、先人たちの思いだと思う。自分の時代でまちづくりが完成するわけではなく、10年後、20年後、最終的には100年後といったような形でまちづくりが続いていくので、そんな思いを今回出してもらえればと思っている。

皆さんが出したキーワード(意見)をまとめると10年後のニュアンスと30年後、50年後のニュアンスとでは違っている。その傾向を見て、例としてキャッチフレーズを記載したので、それを参考に意見交換をしてもらいたい。

【笠原副会長】

今、意見があったように、私は10年後、30年後、50年後はわかりませんと書いている。説明のとおり、まちづくりの夢として考えられる方向性ということで、進めてもらいたいと思う。

— 名簿順に2つのグループに分かれた意見交換 —

【渡辺班長】

今、配ったものがそれぞれのグループでまとめたものである。それでは代表者から発表してもらい、その後、全体で一つにまとめていけたらと思っている。

— 意見交換まとめ —

1 進めていくことで、大切にしたいこと

前半グループ：頸城の担い手を発掘し、歴史文化資源を伝えつなげる

後半グループ：頸城の歴史・文化・自然をみんなで大切に

2 将来、こんな頸城区になったらいいね！_10年後

前半グループ：子どもから高齢者まで1人1人が創る魅力あるまち頸城

後半グループ：多世代間が集い学び合える頸城

3 将来、こんな頸城区になったらいいね！_30年後

前半グループ：守るものは守り、創るものは創る、変化と夢をかたちに進む頸城

後半グループ：地域の歴史、文化・自然を活かし自主的に取り組む頸城

4 将来、こんな頸城区になったらいいね！_50年後

前半グループ：誰もが誇りに思い、みんなが集まる頸城

後半グループ：地域の歴史・文化・自然に誇りを持ち、自分らしく生活できる頸城

前半グループ

【滝本委員】

「進めていくことで、大切にしたいこと」は、人のカテゴリーが多くあり、頸城の担い手に焦点を絞りまとめた。頸城の担い手を発掘し、歴史、文化資源を伝えつなげるというテーマにした。「発掘」は、人の存在を前提とするため、担い手を発掘するという表現にした。

「将来、こんな頸城区になったらイイね」では、10年後のカテゴリーの中で子ども、20代、30代というキーワードが出てきたので、子どもから高齢者までという具体的な表現で「子どもから高齢者まで一人一人が創る魅力あるまち頸城」とまとめた。

「30年後」も意見もいろいろあったが、「守るものは守り、創るものは創る、変化と夢をかたちに進む頸城」というキャッチフレーズにした。

最終的に「50年後」は、みんなが自慢に思うような頸城区になっていたらよいという思いから「誰もが誇りに思い、みんなが集まる頸城」にした。

後半グループ

【橋本委員】

「進めていくことで、大切にしたいこと」は、頸城の歴史、文化、自然をみんなで大切にしていきたいという意見でまとまった。頸城にしかないお宝、頸城にしかない自然、成り立ち、文化、そのようなものを一人一人が愛着を持って、大切なものを守りたいという思いを胸に、前に向けるとよいという思いで「頸城の歴史・文化・自然をみんなで大切に」になった。

「将来、こんな頸城区になったらイイね！_10年後」は、「多世代間が集い学び合える頸城」。この「学び合える」には様々な思いが込められている。頸城の歴史や文化は今知っている人達が伝えていかないと消えてしまうので、それをきちんと伝承して、伝え合い、学び合えるようにという思いである。そして今残っている里山や、そのようなものが綺麗に整備された状態で、世代をつないでいきたいという意見からこの内容になった。

次に「30年後」は、「10年後」では世代間が集い学び合うことを想定しているので、リーダーとなる人が誕生したり、引っ張っていく人が生まれたりしているだろうということを前提に「地域の歴史、文化・自然を活かし自主的に取り組む頸城」とし

た。その30年後のリーダーとなっている人達を基に、自主的にいろいろなことに積極的に取り組める頸城になるとよいという思いがある。

最後に「50年後」については、前半のグループとほぼ同じだが、「地域の歴史・文化・自然に誇りを持ち、自分らしく生活できる頸城」は、地域に誇りを持ち、行政の力を借りずとも自分らしく一人一人が生活できている頸城になっているとよいという思いがある。

【笠原副会長】

各グループから発表してもらったが、これを参考に地域協議会として意見をまとめたいと思う。

【渡辺班長】

この二つの意見を参考に、組み合わせたりどこかピックアップしたりするなど、皆さんの方で一つにまとめていただきたい。

【笠原副会長】

意見を求める。

【新保委員】

「住みたい、訪れたい」まち頸城区は、住んでもらってもよいし観光に来てもらってもよいという意味も含め、集まる頸城ということだ。この「50年後」は、前半、後半のグループの内容がおそらく一緒なので、前半のグループの言葉がまとまっているので、これでよいのではないかと思う。

【笠原副会長】

他にあるか。

【船木委員】

まちづくりは10年後、30年後、50年後につながっていく。前半、後半グループが共通して挙げた歴史、文化、資源もあるが、まちづくりを引っ張っていく旗振り役を決めるということが大事で、地域協議会やくびき振興会以外に頸城の中で頸城を元気にしたいと思う人がいれば、老若男女問わず探すことがよいと思う。

【渡辺班長】

二つの意見を一つにまとめてもらおうかと思ったが、なかなか難しいと思うので意見の内容を事務局で考慮し組み合わせ、会長、副会長と相談の上で、次回の地域協議会の際に案を示したいと思う。

【笠原副会長】

今ほどの説明のとおりでよいか。

- ・異議なしの声

協議事項「(1) 頸城区地域活性化の方向性の検証について」は以上で終了とする。
次に協議事項「(2) 地域協議会活動報告会について」に入る。事務局説明願う。

【渡辺班長】

- ・地域協議会活動報告会について説明

【笠原副会長】

中学生のまちづくりアンケートについて内容の説明があったが、この取組でよいか。

【西巻委員】

まちづくりアンケートの第一段階はこの内容でよいと思うが、このアンケートは5段階評価で、とても好き、全く好きでないとあるが、なぜそうなのかという項目も必要ではないかと思う。

【笠原副会長】

事務局どうか。

【渡辺班長】

中学生は、普段からまちづくりを意識して生活をしている訳ではないので、かなり難しい内容だと中学校から話があった。西巻委員のご指摘のように、実際はそこまで踏み込んで聞きたいが、今回は難しいと思われる。段階を踏む意味で今回は地域づくり、まちづくりや地域の行事等に興味を持ってもらえるきっかけを作るためのアンケートにしたいと考えている。アンケートの後半は、考えなければ答えられないような問いも設けている。最後は、筆記しなければ答えられないような設問もあるので、今回はこのようなアンケートで行いたい。

【西巻委員】

理解した。最終的には複数年かけて子どもたちの意見をしっかり把握していければよいと思っている。

【船木委員】

アンケートの1から13はこれでよいと思う。6番の地域で開催されるスポーツや文化の活動は、大人の自分が聞かれてもわからないし、これは何を指しているのか。

【渡辺班長】

ここは表現を悩んだところだが、こちらで考えたのはスポーツクラブの活動や、文化の活動では茶道や踊りなどを意識して入れてみた。船木委員が言われたとおり中学校の教頭先生からも指摘があり、これが何なのかわかるように記載してほしいとの要望があり、このように修正を行った。もし、皆さんの方で何かよい意見があれば伺いたい。

【船木委員】

まちづくりアンケートなので6番の設問はいらないかと思ったが理解した。

【笠原副会長】

事務局としては、中学生のまちづくりの意識を知ることが目的として設問を考えたのだと思う。子どもたちの気持ちを知ることや、また課題が出てくることで前に進むこともある。中学生がすぐできることは一つ二つのボランティア等の地域貢献かと思うが、全体の方向性を考え、中学生の意見を聞きだすということで進めていく。協議事項「(2) 地域協議会活動報告会について」は以上で終了とする。次にその他に入る。

【渡邊次長】

- ・その他について説明

【船木委員】

能登半島地震で何度か避難勧告が出されたが、頸城区ではどのくらいの人が避難したのか、わかるのであれば教えてほしい。また、外国人や避難した人のとりまとめなど、どのような対応をしたのかもわかれば聞かせてほしい。

【渡邊次長】

頸城区全体では避難所8か所全て開設し、避難者数は最も多い時間帯の午後7時頃では、およそ約1,400人で、南川小学校は約800人、希望館は約500人であった。外国人市民は200人以上の方が南川小学校に避難し、雇用先の所長等と一緒に行動されていたと聞いている。南川小学校には想定していなかった人数の方が避難されたので、今回は地元の方から自主的に避難所運営を手伝っていただいた。そのような状況だったので、南川地区は今回の震災の避難状況を踏まえ、避難所運営をどのようにしていくか、町内会関係、関係機関の方に集まってもらい打ち合わせを行いた

いと考えている。

【船木委員】

もう一点、避難所の鍵がないためガラスを割って避難した避難所があると報道されていたが、頸城区ではそのような問題はなかったか。

【渡邊次長】

南川小学校以外は職員が、南川小学校は地元の町内会長が開錠したと確認している。旧古城小学校では、報道でもあるように入口のガラスを壊して避難しており、そのような事例は市内でいくつかあった。危機管理課にも確認したが、緊急事態時はその場で判断して構わないとの回答であった。

【笠原副会長】

他にあるか。

- ・なしの声

【渡邊次長】

- ・次回の第11回地域協議会の日程について提案

令和6年2月21日（水）午後6時30分から開催

【笠原副会長】

開催日時は問題ないか。

- ・なしの声

他にないか。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

頸城区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-530-2311（内線212）

E-mail:kubiki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。